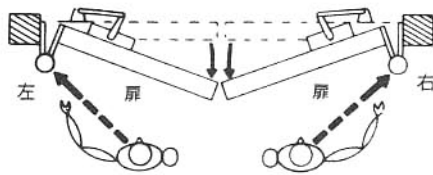


M822(3)P M822(3)PS M822(3)PSF
 M832(3)P M832(3)PS M832(3)PSF

説明書は、右開き勝手扉について図示してありますので、左開き勝手扉の場合は、本図と左右対称の位置となるように取付けて下さい。

1 扉の開き勝手

必ず吊元（丁番軸）の見える側又は、扉を引いて開ける側に立った時に吊元が



- 本体及び付属部品には、左右の勝手がありませんが、扉の開き勝手によって、取付ける向きが異なります。
- 左図の開き勝手区分④又は⑤によって、正しい向きに取付けて下さい。
- 中心吊では左図の開き方向に合わせて下さい。

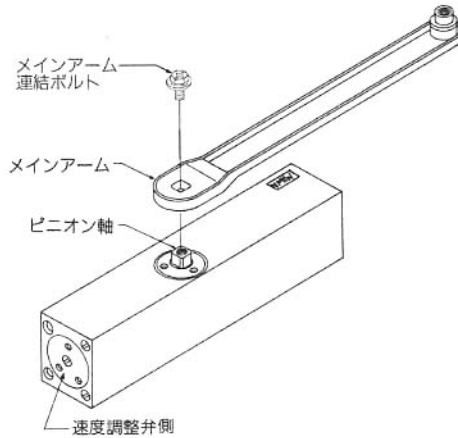
扉のどちら側に取付けるか

- クローザ本体は、左図の如く丁番の反対側に取付けて下さい。

左に見えるものを 左開き勝手扉
 右に見えるものを 右開き勝手扉

注意事項 平行取付型と標準取付型とはドアクローザ本体が異なりますのでご注意ください。

5 メインアームの取付

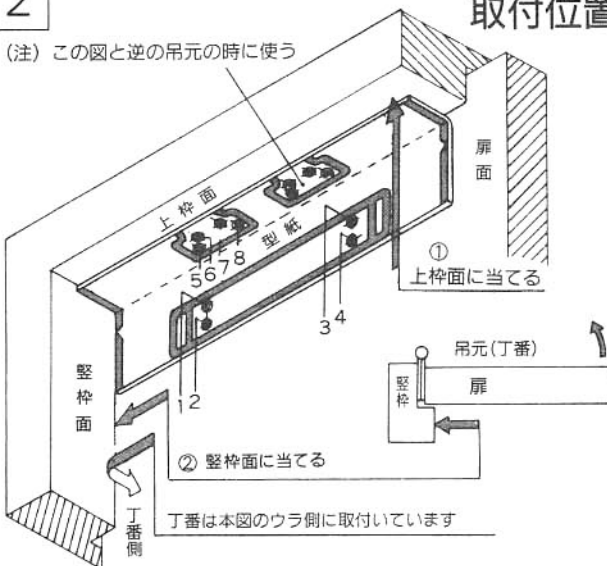


- 本体の向きは速度調整弁を吊元側に向けて下さい。
- メインアームは必ず吊元の反対側に伸びる様に取付けて下さい。
- メインアームをピニオン軸にメインアーム連結ボルトにてしっかり締付けて下さい。

注 メインアームがピニオン軸に入りにくいときは、ピニオン軸にメインアームの角穴をあてがい、連結ボルトにてねじ込んで下さい。ハンマー等でメインアームをたたいて入れるとピニオン軸受部を破損し、油もれを起こし正常に機能しなくなります。

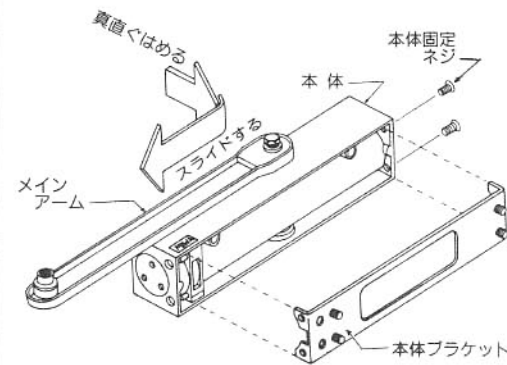
2 取付位置の決め方

(注) この図と逆の吊元の時に使う



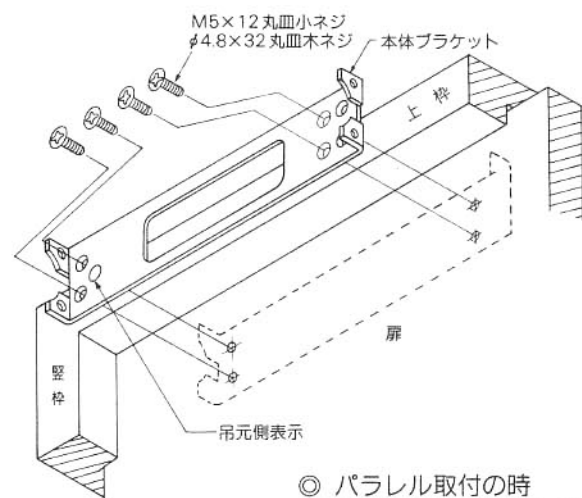
- 添付の「平行取付用型紙」を扉面にぴったり当てて、取付穴の位置を決めて下さい。
- その時、型紙①部を上枠面に、型紙②部を縦枠面にぴったり当て穴位置を決めて下さい。
- ネジ穴数は8カ所です。

6 クローザ本体の取付



- 本体を本体ブラケットにはめ合わせて、本体を吊元の反対側に向かって扉面に沿ってスライドして下さい。
- 本体固定ネジ（2本）にて本体を、本体ブラケットに固定して下さい。
- 左図は本体の裏面から見ておりますので向きにご注意下さい。

3 本体ブラケットの取付

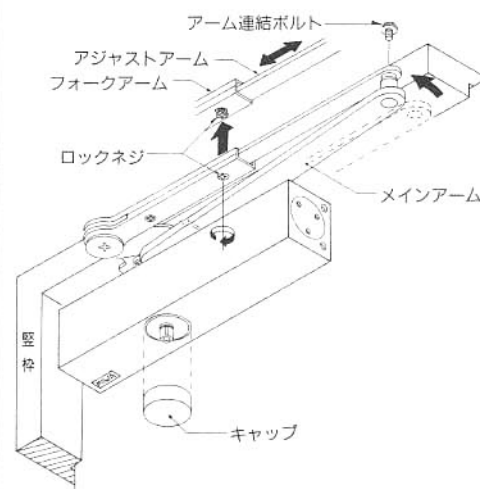


- 本体ブラケットの○印を吊元側に向けて扉面に取付ネジ（4本）にて取付けて下さい。

注 取付ネジは、強く締付けて下さい。緩いと本体がぐらつき正常な機能を果たさなくなります。

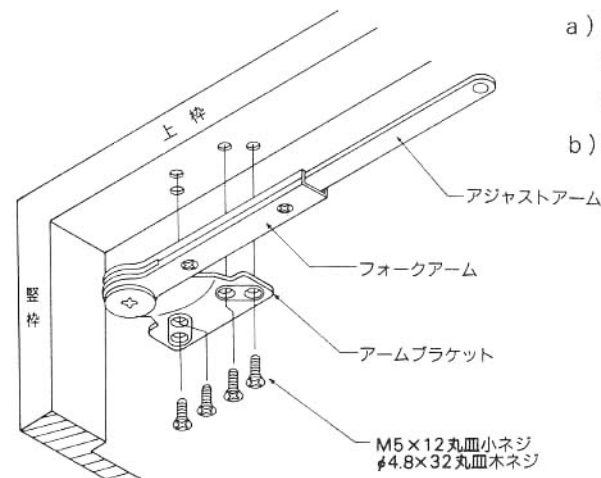
◎ 平行取付の時
 ○印を必ず吊元側に向けて取付けて下さい。

7 アームの連結



- フォークアームとメインアームを仮連結して下さい。フォークアームの長さを変える場合は、次のb)、c)の手順で行って下さい。
- ロックネジを緩めて（3回転程度）緩めたロックネジを上へ押し上げると、アジャストアームは長さの調整が可能となります。
- 適度な長さに調整後、ロックネジをしっかりと締付けて下さい。
- アーム連結ボルトをしっかりと締付けて下さい。
- キャップは下からパチッとはめて下さい。

4 アームブラケットの取付



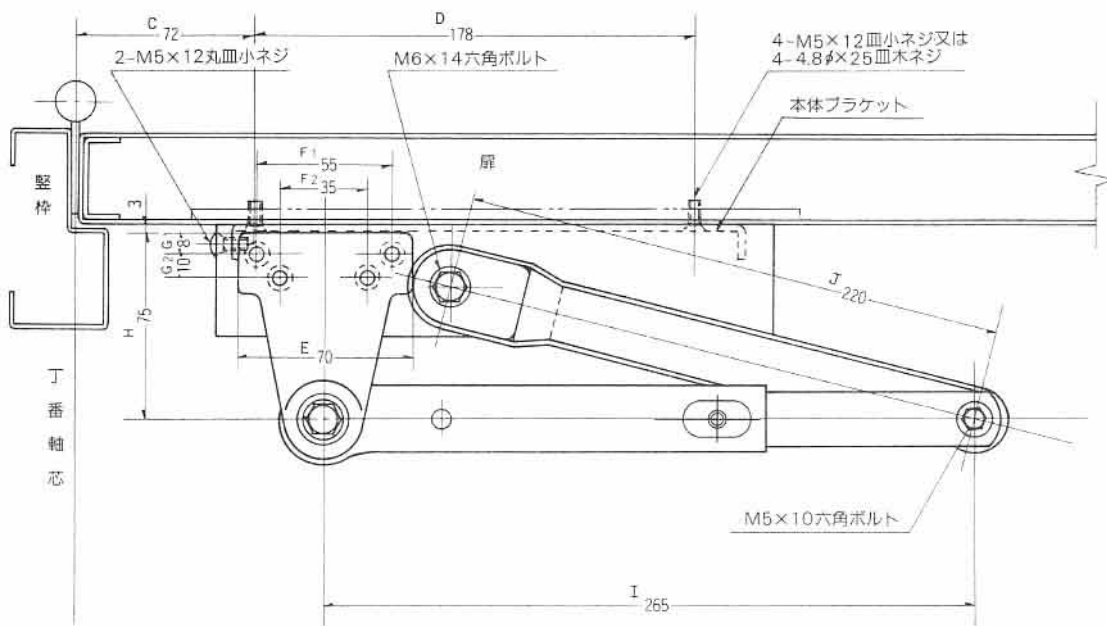
- アームブラケットを上枠に取付ネジ（4本）にて取付けて下さい。
- 本図はストップ付アームを示す。

注 取付ネジは、強く締付けて下さい。緩いとアームがぐらつき正常な機能を果たさなくなります。

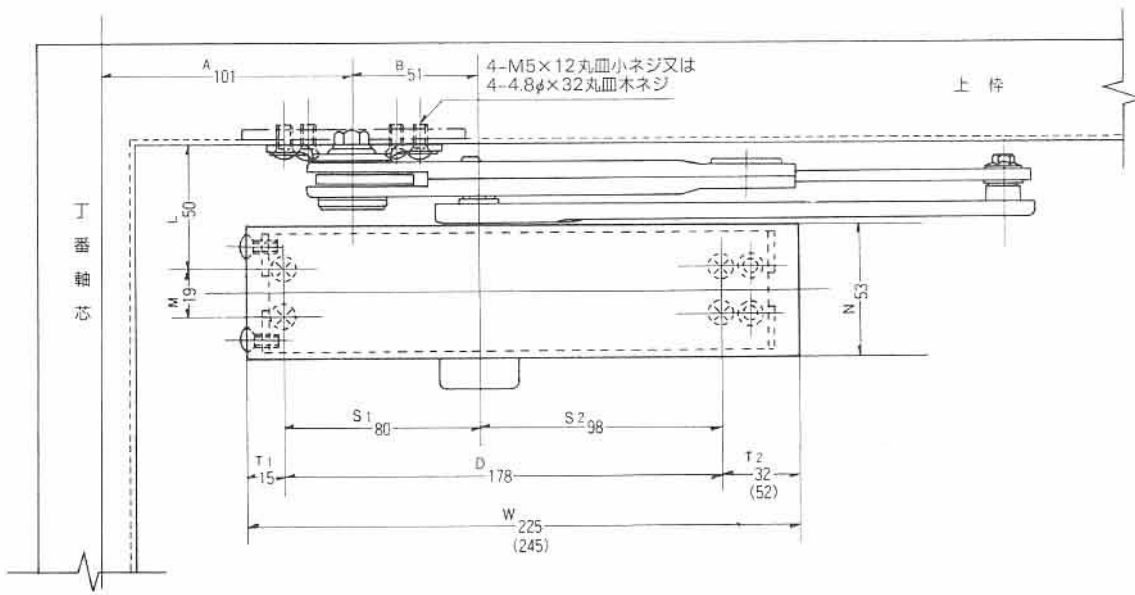
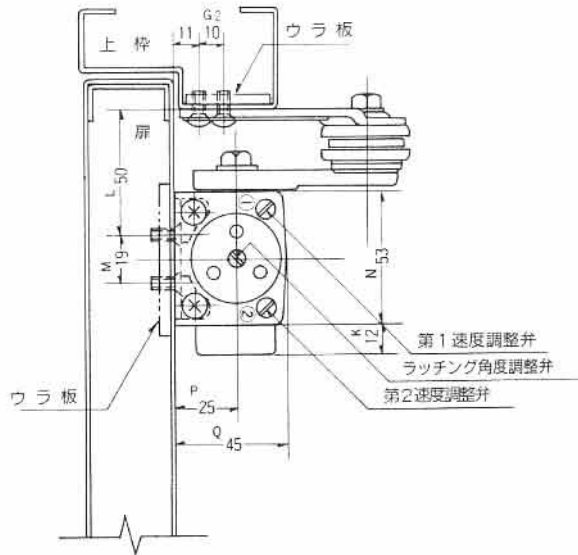
ストップ角度の決め方及び速度調整の方法は裏面をご覧ください。

取付寸法図

呼称番号	適用ドア	
パラレル取付	寸法 (最大) 巾×高さ(mm)	重量 (kg)
M822P M832P シリーズ	900×2100	25 ~ 45
M823P M833P シリーズ	950×2100	40 ~ 65



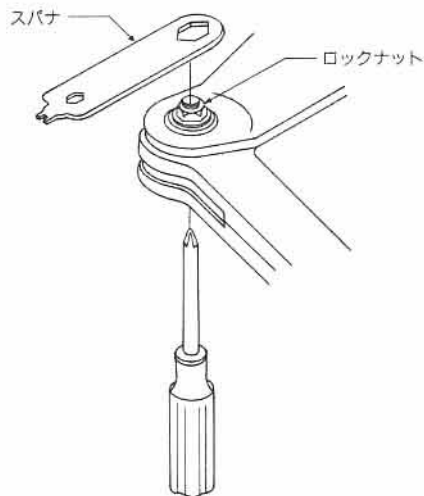
- () 内寸法はM823P/M833P型を示す。
- アルファベット記号は電話等でお問合せの時、呼称して下さい。



8 ストップ角度の決め方 (ストップ装置付の場合)

- 扉をストップさせたい位置まで開いて、ロックナットを添付のスパナで締付けて下さい。この時、扉をその位置まで軽く振りながら噛合いが完全なことを確認して下さい。(ボルトが共回りする時は下方からドライバーで支えて下さい。)
- 再度ストップ角度を変えるときはロックナットを緩めて、a) の手順で行って下さい。

ストップ角度は5 ~ 6 度間隔で設定できます。(0 ~ 90度間)



注 ロックナットは強く締付けて下さい。緩いと部品同志の噛み合いをすばらせてしまい、ストップ不良となります。

9 速度調整の方法

このドアクローザは工場出荷段階で速度調整がされていますので、通常は調整が不要です。もし調整が必要な場合は、次の要領で行なって下さい。

- 調整弁は3つあります。1速弁と2速弁で全体の閉じる速度を調整します。下図のように、調整弁を左に回せば閉扉スピードははやく、逆に右に回せばおそくなります。

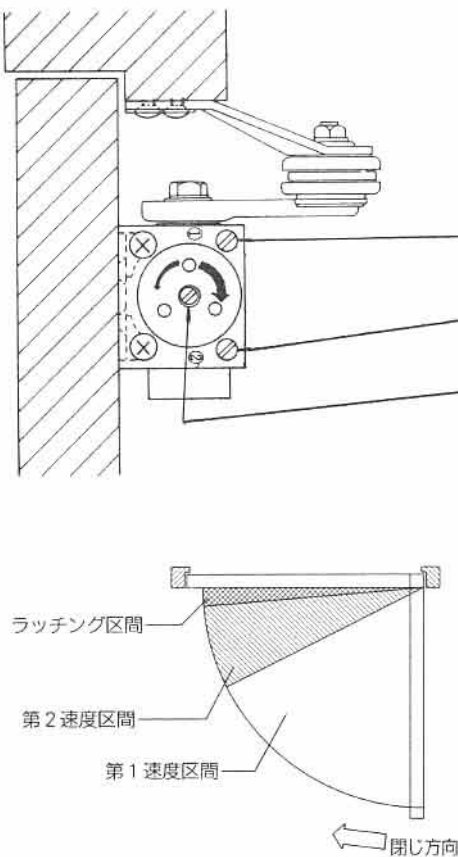
はやくなる (左へ回す) おそくなる (右へ回す)

- 第1速度調整弁
1速をはやくしたい場合は左へ回す
- 第2速度調整弁
2速をはやくしたい場合は左へ回す
- ラッチング力調整弁

扉が閉じる寸前の「力」を強くしたい場合は、右に回しねじ込んでいくとラッチング角度が大きくなり強く締まります。

1回転約2度 (最大8度まで)
※閉じる「力」を弱くしたい場合は左へ回す。
ラッチング力

よわくなる (左へ回す) つよくなる (右へ回す)



注 調整弁は必要以上に回したりしないで下さい。緩めすぎると調整弁がすれ油もれを起こし正常に機能しなくなります。電動ドライバーは、故障の原因となるため、使用しないで下さい。